

## 令和6年度 第1回 介護・医療連携推進会議議事録

- 日時：令和6年4月23日(火) 17:30 ～ 18:15
- 場所：デイケアセンター春海
- 出席者：甲斐市職員、榎東区自治会長、榎東区民生委員、あすか在宅クリニック、山梨県立大学、利用者さま家族、当法人職員、あさがお職員（計18名）

議事事項	<p>1.) 現状報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①利用者数について</li> <li>②訪問件数について</li> <li>③R4年度相談等</li> <li>④取り組み</li> </ul> <p>2.) 自己評価の説明と質疑応答</p> <p>3.) その他</p>
議事内容	<p>1.) 現状報告</p> <p>① 利用者数について</p> <p>目標を15名としてきたが、平均利用者数は11.2名(前年度9.5名)で目標は達成できていない。総利用者数は27名(終了者内訳：7名看取り、6名再入院、3名他サービスへの移行や、軽快による終了)、医療的ケア(吸引、胃ろう等経管栄養)の利用者は4名対応しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要介護度が高い方は短期間で終了になり、入れ替わりが激しい状況であった。</li> <li>・要介護3～5の方は終了者が多く、R5年4月は8名だったがR6年3月には4名となり、平均介護度が下がっている要因と考えられる。</li> </ul> <p>介護度1・2の方は認知症、独居のケースの依頼が増え、長期的な利用となっている。</p> <p>② 訪問回数について</p> <p>平均訪問回数は、2～4回/日。介護のみの利用者様(難病等により医療保険での訪問看護利用含む)は全体の1割程度となっている。看護訪問は、体調の確認を行いつつ介護職の安心を支援できるように、1回/週で対応している状況。</p> <p>緊急(随時対応)訪問は30回/月前後であった。本人からの不安の訴え、一人暮らしの方の家族から依頼される安否確認、排泄介助でした。</p> <p>新型コロナウイルスやインフルエンザの罹患されたケースに対して、感染対策を行ったうえで一時的に随時訪問を増やしたケースもあった。</p> <p>③ 活動状況</p> <p>あさがお便りの発行、研修会におけるPR、榎東区の住民の方々への定期巡回の周知活動、県内の病院ケースワーカーの研修への参加、民間病院協会の事例発表</p>

- ・営業活動…連携室窓口担当の方と面談

#### ④ その他 職員研修の実施状況

##### 内部研修

マスク、ガウン、手袋の着脱方法、ポジショニング指導、喀痰吸引等の手技獲得研修、認知症ケア、調理時の衛生管理について。緊急時、急変時の対応と連携方法。

##### 外部研修

- ・虐待防止、認知症実践者研修
- ・介護現場におけるリスクマネジメント研修
- ・福祉職場におけるメンタルヘルスマネジメント研修

#### 2.) 自己評価の説明と質疑応答

自己評価 項目 7 介護・医療連携推進会議で得られた意見等の適切な反映

##### (質問)

地域への説明会をして地域での変化を感じているか、声が上がってきているのか。

##### (回答：自治会長様)

なかなか浸透していないと思う。実際に対象者は増えていると思うが、浸透するまでに至らない部分と、浸透している部分がある。

一人暮らしになると中々外に出られず地域の方との交流が出来ない。これからも進言していきたい。

認知症カフェ開催においては、自治会長をもとに回覧をしたら地域の人が参加してくれた例もあり、また頑張っていきましょう。

自己評価 項目 29 積極的な広報周知について

##### (意見)

昨年も自己評価では出来ていないことが多いとなっているがコメントを見る限りほぼできているにしても良いのではないかと

##### (質問)

地域を交えて感じていることは？

##### (回答)

一度利用してくれたことのあるケアマネさんは、良さを分かってくれているので、次に繋がっている。

ネット詮索から利用に繋がったケースがある。支援が必要な人に周知していくにはどうするのが良いのか、行政も一緒に考えていく必要がある。

##### (意見)

外へ出られない方々へのアプローチを、行政と連携して解決出来れば良いと思う。

自己評価 項目 32 安心して暮らせるまちづくりに向けた、課題提起、提案等

	<p>(質問)  昨年より改善されている。県内の同サービス事業所と交流会を行い、今後の展望について共有できたことや、その情報から甲斐市の特性等でなにか変化がありましたか。</p> <p>(回答)  地域の独特の色があるので、どのように網羅していくかが課題。</p> <p>(意見)  甲府の事業所では周知してもらうのに5年かかった。事業所として今後も同じように周知活動をしていながら質を保つようにした方が良いと思う。支援が必要になった時に、自治会や民生委員が入った時の道順をはっきりしておくことが大事。</p> <p>自己評価 項目 34 在宅生活の継続に対する安心感  (あすか在宅 意見)  医療機関も協力する必要がある。</p> <p>3.) その他  (甲斐市職員)  終了者3名について、地域やケアマネとの連携について。</p> <p>(回答)  医療依存度の高い方は、ご家族様へケア手順を一緒に行うことで自信がつき、ご家族様がケアを対応できるようになり終了したケースなどある。  ケアマネは定巡を知っているがサービス利用に繋がっていないケースが見られている。今後も、PR活動を継続していく。</p> <p>(法人職員)  看多機について→利用者様の状態等を考え定巡か看多機が良いか選定しながら決めていきたい。</p> <p>R6年10月に看多機が開所予定。今後、看多機も含め会議の開催を考えている。その時にはまた貴重なご意見等伺えたらと思いますので宜しくお願い致します。</p>
<p>課題事項</p>	<p>定期巡回の存在や事業内容など、まだ世間に知られていないことが多い。</p>
<p>備考</p>	<p>次回予定：R6年9月（予定）</p>